

【事業実績】

1. 黒耀石のふるさとサテライト祭り

①黒耀ウィーク回廊展示&スタンプラリー



タペストリー展示



スタンプラリーの参加者

道の駅「マルメロの駅ながと」構内の回廊スペースにこれまでの黒耀石をはじめとする歴史遺産を生かした取り組みや、歴史遺産を紹介するタペストリーの展示と、道の駅構内を巡回するスタンプラリーを実施しました。特にタペストリー展示については、参加者や町民、道の駅関係者から道の駅に彩りを加え、且つ町の魅力発信に繋がることから恒久的な展示を望む声があがりました。

②黒耀の森ビデオコンサート

道の駅に令和2年度にオープンした農産物直売所「マルシェ黒耀」内に設置されたモニターを利用し、「黒耀石のふるさと親善大使」であるシンガーソングライターの葦木啓夏さんの楽曲及びインタビューを放送しました。

また併せて、依田窪南部中学校生徒会が作成した、これまでの「オブシディアン学習」をまとめたビデオも放送し、マルシェ黒耀を訪れたお客さんを中心に生徒の取り組みをアピールする機会となりました。

③黒耀石クラフト実演



実演販売の様子



石器づくりの実演

マルシェ黒耀店内では、黒耀石体験ミュージアムの職員が出張し、ミュージアムグッズの実演販売を実施しました。ストラップやブレスレットの他に、あんぎん織りといった普段なかなか目にする機会の少ない商品の制作過程を見せることによって、訪れたお客さんが関心をもって見学し、購入していただけました。

また、野外ではミュージアム友の会会員による黒耀石の石器づくりを実演しました。石器づくりの過程も普段目にする機会が少ないため、通りかかった道の駅利用者のうち特に子ども連れの家族が足を止め見学や、会員に

よる説明に耳を傾けていました。

④黒耀・縄文フード販売



古代米を使った「縄文風カレー」



縄文フード試作品販売

「マルシェ黒耀」食堂では、長門小学校の生徒が授業の一環で考案した縄文時代や黒耀石をテーマにしたレシピを基に、食堂の料理長が実際に商品化し販売を行いました。また、食堂内には長門小、和田小、依田窪南部中学校の児童・生徒が考案したレシピをポスター展示も行いました。児童・生徒が考案したレシピが商品として販売されることによって、これまでの取り組みがより多くの人の目に触れ、将来の歴史遺産の担い手である子どもたちも、既に歴史遺産の活用を担っているという自覚を持つ機会となりました。

また、地元の商店に委託し縄文時代や黒耀石をテーマにしたクッキーやパンなどの開発と試作品販売も実施しました。

2. 「地域歴史遺産継承人材育成事業」

今回の黒耀石のふるさとサテライト祭りでは、従来のワークショップ中心の内容から、これまでの取り組みをアピールすることに重点を置きました。道の駅という町内外の多様な人々が行き交う会場を用いて、これまでの取り組みを発信することで、継続して取り組みに協力してきた関係者にとってはこれまでの成果を発表する機会となりました。また、会場を従来の黒耀石展示・体験館から移すことによって、歴史遺産を活かした地域振興は地域の商工観光分野の団体でも行うことができるというアピールに繋がり、今後も歴史遺産を活かしたイベントを道の駅で開催してほしいという意見も上がりました。



小中学生考案の縄文フード ポスター展示



「縄文フード」を眺めるお客さん